

觀察の本と、唱歌の本

こを出したにつけて

倉橋惣三

この夏、本會から、觀察の本と、二種の幼稚園唱歌集とを刊行した。それだけ優秀なものかは、自卑すればきりがないし、自讃すれば更にきりがない。たゞ、両方とも、斯うしたものが、強く求められてゐる中に出てゆくとして、その理由では必ず迎へて貰へるこゝと思つてゐる。

「觀察の實際」は、前刊の「系統的保育案の實際」の子本（おかしな言葉であるが、系統的保育案の實際」を親本として、その補充解説のためにそれから小分れに出て来るもの）であつて、あの保育案が發刊せられて以來、本會の一つの義務となつてゐるものであり、又あの保育案の普及と共に、廣く求められてゐるものである。東京女子高等師範學校附属幼稚園の實施案を保姆諸君が協議し検討し、更に分擔して執筆起草し、それを編纂掛りに於てまじめ上げたものである。觀察はその目的では明瞭でも、その實際では確たる方針も態度も、随分むづかしいこゝこゝにはれてゐる。又實地に行はれてゐるこゝこゝも、可なりまち／＼であ

るらしい。そこへ、一つの參考として提供したのである。

何も此の通りにさういふ譯ではないが、之れで、理科教授でもなく、無觀察でもない幼稚園保育の觀察のめやすが立つていふものか。編輯上の大きな苦心と努力を、知つてゐる私としては、可なり大きい價値を、此の本に認めずにはゐられない。何しろ、こゝこゝ本は初めて世に出た譯であつて、

幼稚園保姆諸君は、執つて用ゆるなり、批判して斥けるなり、是非一應は讀んで見て下さらなければならぬまい。本會も説も御意見を澤山承りたいのである。觀察に關する論も説も多い。實際の研究の綜合的發表はまだ少ない。従つて、問題はしつかりきまらない風があつたりする。此の小さい本がその踏み石になれば幸である。體裁は前刊「幼稚園談話集」と同じで、謂はゞ、保育項目研究上の姉妹篇である。

唱歌の本の方は二種出した。両方とも新詞新曲で、本の標題を「幼稚園新唱歌」「新體幼稚園唱歌」として區別したが、表紙の色で綠表紙唱歌集、褐色表紙唱歌集と區別してゐる程のものである。

「幼稚園新唱歌」の方は、嘗て本會が懸賞募集した幼稚園唱歌の中入選せられた佳作四篇に、小松耕輔氏の作曲を乞ふたものである。山村きよ氏の「めだか」、杉山米子氏の「雨」、青山綾子氏の「ほたる」、氏原銀氏の「ふしん場」。どれも女性の作である。氏原氏（先般物故せられた我國幼稚園

の最先驅者のお一人を除いては、皆妙齡の淑女諸君で、その歌詞も亦、皆やさしい。綠唱歌集こいふに極くふさわしい。小松氏の作曲に就ては言を用ゐるを要しない。「新體幼稚園唱歌」の方は、一層その表紙の色に相當したものである。何故なら收むるころの五篇皆倉橋老大人の作だからである。誰れが見ても褐色唱歌集である。更に、その歌の内容も、巻頭「日本の旗、日の丸の旗」を除いては、「道ぶしん」「いふびんやさん」「渡し場の船頭さん」「火消しのおぢさん」皆、花鳥風月の美を取扱つたものでなく、實社會生活の、その中でも、實勤勞に屬するものゝみである。従つて褐色的であるが、そこに私の意圖があることは、お汲み上げ願ひたい。つまり幼児に、斯うした感激の歌が歌はせたいのであり、その保育効果にも或る期待をもつてゐるのである。斯ういふ歌詞に豫て贊同の方は勿論、不贊同の方にも、是非一應御覽願ひたい。作曲は小松耕輔氏、井上武士氏、弘田龍太郎氏、中山晋平氏、小林つや江氏で、作詞者としては恐縮にたえない程勿體ない佳曲そろいである。

折角く出したものにつき、その心もちを御諒解いたゞきたいと思つて、一筆記して申上げて置く。さうぞ廣く使つて、刊行の心を活かして下さい。

事務係からのお願ひ

○本會發行の書籍等を御購入下さる場合、よく代金引きかへのお申込みがございませう。出来るだけ御便宜にと存じて居りますので、御申込み通りのお取り計らひを致しますと、代金引き換へ料金が意外に高價だと言ふので、御返本になる方が屢々ございませう。誠に困りますので、この後は代金引きかへのお取り次は致さぬ事になりましたから御諒承下さい。

○雜誌でも書籍でも御注文の際には必ず代金お拂込みの上御注文下さい。之も皆様の御便宜にと存じますので、後から拂ふからとのお言葉により御急ぎの場合には御送本いたしました方が、御拂込みが大變おくれる方もあり、事務が誠に煩雜になつてまゐりますので、この後は特別の場合の他は代金のお拂込み無き御注文には御送本致さぬ事になりました。之又御承知置き下さいませ。

○「幼児の教育」及び他の書籍の代金に對しては別に領收證を差出しませぬ。特に御入用の方は必ず三錢切手封入の上御申越下さい。

日本幼稚園協會